

報 告

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会関西支部 / 車いす SIG 合同勉強会
「車いすトーーーク」

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科 3年 山中 瞭

1. はじめに

2015年4月19日に日本福祉用具評価センター(JASPEC)(兵庫県中央区)において日本リハビリテーション工学協会関西支部/車いすSIG合同勉強会「車いすトーーーク」が開催された。私は神戸学院大学から、会場設営等の補助、勉強会を目的として参加した。

2. 勉強会の目的

今回の合同勉強会の目的は、車いすの歴史から車いすとそのユーザーの生活を見つめ直そうというものだ。おもちゃやマンガなどの文化的な側面からと、多くの当事者に必要な技術を届ける工業的側面からの二つの方向から車いすを語る。その後、昔の車いすを見ながら歴史や成り立ちについて語り合う。

3. 車いすの文化的な側面

「文化の中の車いす～車いすのおもちゃやマンガから～」講師は神奈川県総合リハビリテーションセンターの沖川悦三氏。車いすのおもちゃやフィギュアを過去から最近の作品まで順を追って紹介があった。集めた数が総数160種類以上、今でも増え続けている。おもちゃの展示もあり、手にとってその精巧な作りを見ることもできた。

私が一番印象に残ったフィギュアはマンガ「リアル」の戸川清春だ。原作を読んでいたのでフィギュアを見ただけでそれとわかるほどの仕上がりだった。原作の認知度は高く、こうした原作以外の媒体により、もっとこの作品が広まり、一人でも多くの人々が車いすスポーツに興味を持ち、関心を寄せてくれることで

車いす産業はさらなる発展を遂げると思う。

沖川氏は日本の車いすのフィギュアが少ないことを問題提起し、もっと増えて欲しいという希望と、海外との文化の違いがこの問題を引き起こしているのではないかと締めくくった。

4. 車いすの工業的な側面

「工業製品としての車いす」講師は川村義肢株式会社の松田靖史氏。世界の工業の発展と共に、車いすの技術も発展し続けた。車いすの骨組みのパイプの溶接の方法さえ、時代により方法が異なる。その背景には時が経つにつれ発展した産業、すなわち車や機械からの技術であることが明瞭であり、将来的には車いす独自の考え、技術が生まれ、他の産業へ技術発信していけるようになればと話していた。

5. 最後に

今まで知らなかったことをたくさん知ることができた会であった。この会に参加して、私自身、以前よりも車いすに対する興味は増し、毎年開催されているので、来年も是非行きたいと思った。貴重な機会なので、もっと規模が大きくなり、様々な方が参加することでよりいいものになると思う。



図1 展示されたおもちゃ



図2 昔の車いす

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部
理学療法学科
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬 518